

世界遺産の観光事情は？ 県立大と大阪商大生 石見銀山町並み調査

の観光事情を調べた。参加したのは、県立大の井上厚史教授(54)のゼミ生18人と、着地型観光をテーマにする大阪商大の横見宗樹准教授(40)のゼミ生16人。

両大混合で編成した五つの班ごとに「店舗」「ボランティアガイド」といったテーマを設定。町並み地区などを歩きながら調査した。

このうち「ごみ問題」を扱った班は、一帯に(浜田市野原町)と大阪商業大総合経営学部(大阪府東大阪市)の学生が7日、大田市大森町の石見銀山で合同フィールドワーク(現地調査)を行い、交流を深めながら世界遺産



たばこの吸い殻など、ごみの処理状況を調べる県立大と大阪商大の学生

班長を務めた県立大2年の金川夏美さん(19)は「ごみに対する地元の意識の高さが分かった」と話した。学生たちは6日から2泊3日の日程で合宿中。8日は浜田市三隅町室谷の室谷棚田で一緒に田植えをする。